

第103回 横浜市公立大学法人評価委員会 会議要録	
日時	令和7年8月21日（木）14時00分～15時35分
開催場所	横浜市役所18階会議室（みなと6・7）
出席委員	板東委員長、今市委員、大塚委員、小峰委員、山本委員
欠席委員	なし
法人	近野理事長、石川学長、橘副学長、宮城副学長、稲葉副学長、小川特命副学長、遠藤附属病院長、田村市民総合医療センター病院長、松井事務局長 ほか
市・事務局	吉川総務局長、今市大学調整部長、櫻井大学調整課長、秋本大学調整課担当係長 ほか
開催形態	公開（傍聴者 なし）
議題	1 第102回 横浜市公立大学法人評価委員会 会議要録（案）について 2 令和6年度 公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価結果について

開会	
議事	<p>（主な発言等は、以下のとおり）</p> <p>議題1「第102回 横浜市公立大学法人評価委員会 会議要録（案）について」 （資料1の内容で公表することについて異議なし。）</p> <p>議題2「令和6年度 公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価結果について」 【委員長】 資料2-1は、各委員による評価、意見を元に作成した原案となっている。</p> <p>【事務局】 （資料2-1、2-2を説明） 原案は、委員全員が一致している場合はその評価とし、分かれている場合には多数側の評価としている。</p> <p>【委員長】 まず、項目別評価について、評価が各委員で一致していない項目や、自己評価と異なる項目を中心に審議し、最後に総評の内容を確認して、委員会としての評価を確定していきたい。</p> <p>● 項目別評価</p> <p>「I 教育」</p> <p>1. 新たな時代を見据えた教育の提供 【委員長】 全員がBで一致、法人の自己評価もB。評価所見の記述内容も含めて、原案どおりでよろしいか。 （異議なし）</p> <p>2. 5学部6研究科における教育の充実 【委員長】 全員がAで一致、法人の自己評価もA。評価所見の記述内容も含めて、原案どおりでよろしいか。 （異議なし）</p> <p>3. 時代に即した学修環境・学生支援の提供 【委員長】 Aが2人、Bが3人であるため、原案はBとしている。法人の自己評価はB。 まず、Aとした委員から意見をいただきたい。</p> <p>【委員】 実績が定量的指標を上回っている点と、また、学生への様々なコンテンツの提供は大変だったろ</p>

うと感じて、Aとした。

【委員】

ここの定量的指標はなかなか難しいものと思うが、しっかりクリアされているのでAとした。

【委員長】

次に、Bとした委員の意見を伺いたい。

【委員】

悩んだ部分ではある。確かに定量的指標は項目によっては大きく上回っているものもあるが、内容的にはSNSの配信回数や閲覧数の合計件数が多いというもので、Aとするまでの指標ではないのではないかと考え、Bに留めた。

【委員】

自己評価を尊重した。プラスに見える部分があるのならAでよいと思うが、私の知見ではプラス要因を見つけられなかったためBとした。

【委員長】

私もBとした。いろいろな形のきめ細かい支援をしていることは評価できるが、先ほどの話のように、指標の性格がそのものずばりというよりは、多少、別の点から見ているところがあったので、この辺りをどう評価すべきか悩んだ。

【委員】

私はとても大変であったろうと慮ってしまいAとしたが、これは事業計画に対しての評価であるから、元からこれをやるという計画を立てて、粛々とやったということなのであれば、自己評価の通り、Bということかもしれない。

【委員】

私もAとBの中間に位置すると考えるので、Bとしても構わない。

【委員長】

難しいところではあるが、計画通り粛々と実施しているという形のもので、自己評価はBであること、また、AとBの中間に位置するという意見もあり、委員によってニュアンスが違うところもあるかと思うが、多数に従ってBということにさせていただきたい。

評価所見の記述内容についても、原案どおりでよろしいか。

(異議なし)

4. 多様で優秀な人材の獲得と輩出

【委員長】

全員がBで一致、法人の自己評価もB。評価所見の記述内容も含めて、原案どおりでよろしいか。

(異議なし)

5 社会人の学び直し

【委員長】

全員がBで一致、法人の自己評価もB。評価所見の記述内容も含めて、原案どおりでよろしいか。

(異議なし)

II 研究

1. 先進的・学際的研究等の推進

【委員長】

Bが3人、Cが2人であるため、原案はBとしている。法人の自己評価はBである。

【委員】

Cとした。取組については、各指標を個別に見ると達成しているものも多くあるが、重要視されるであろう「主要な学術書等掲載論文数に対する Top10%論文数」については、計画通りに進んでいない。進捗率では 25.7%と、中期計画を踏まえても低水準と判断した。

【委員】

経営環境が厳しく、研究の推進に注力できる状況にないことは十分に理解しているが、それでもなお、関東屈指の医学部を擁する横浜市立大学として、臨床研究中核病院を目指す歩みを止めることなく、前進していただきたい。そうした叱咤激励の意味を込めて、Cとした。

【委員長】

Bとした委員の意見を伺いたい。

【委員】

Top10%論文数については更なる努力を期待したいところではあるが、その達成がいかに困難であるかは十分に理解できるところ。産学連携をはじめとした、戦略的な多方面での取組に尽力している点を評価し、また、自己評価もBであるということなのでBとした。

【委員】

法人の説明では、必要な取組は着実に進めているとのことであった。今後の成果に期待を込めて、挽回可能な範囲内であると判断し、今回はBとした。

【委員長】

私もBとしたが、元々、横浜市立大学は研究水準が非常に高く、過去には高い数値を示していたことを踏まえると、近年の論文数の減少は、コロナ禍等の影響を受けた結果とは言え、残念に感じている。一方で、現在も高い数値目標を掲げ、大学として意欲的に取り組もうという姿勢があり、当然、その力があると思うことと、Top10%論文以外の面では様々な研究プロジェクトの推進等、積極的な活動が見られ、総合的にCでは低すぎると判断し、Bとした。

この点は評価の分かれる難しい部分かと思うので、引き続きの審議をお願いしたい。

【委員】

Cとすることで現状に対する危機感を持ち、来年度に向けて大きく挽回していただくという選択もあるし、一方で、委員長が示されたように、今後の改善に期待を込めて評価するという考え方もある。いずれの判断も妥当性があると考えており、本件については委員長に一任したい。

【委員】

私もBとすることに異論はない。

【委員長】

それでは、高い目標に向けて一層努力していただきたいという期待を込めて、Bと評価する。本来であればAやSを目指してほしいという、今回はその期待を前提としたBであることを申し添えさせていただく。

【委員】

以前の委員会でも申し上げたとおり、現在、大学病院や特定機能病院においては、階層分けの動きが進んでおり、研究能力の有無が、上位に位置づけられるか否かを左右する要素となっている。こうした状況を踏まえ、ぜひ、研究推進にしっかりと取り組んでいただくことを期待する。

【委員長】

表現を少し強めた方がよろしいか。

【委員】

一連の議論を十分に共有できていると考えるため、今のままでよいと思う。

【委員長】

確かに、Bにしては「更なる充実を期待する点」に力点が置かれているため、概ね意図は伝わっていると思われる。ひとまず、現状の形で進めるが、全体のバランスの中で、意見等があれば、適宜、御指摘いただきたい。

2. オープンイノベーションの推進

【委員長】

Sが4人、Aが1人であるため、原案はSとしている。法人の自己評価はS。

【委員】

Aとした。J-PEAKSについては、もちろん非常に高く評価できる。しかし、それ以外の指標等も踏まえ、全体のバランスを考慮した結果、Sにまでは至らず、Aとした。私の評価はやや厳しめであるかもしれないため、他の委員の意見を伺ったうえで、Sとすることに妥当性があると判断できればそれで問題はない。

【委員】

J-PEAKSの採択については、他の委員の方々が記載されている内容と同様に、高く評価すべき事項であると考ええる。また、オープンイノベーション研究施設については詳細を十分に把握しているわけではないが、竣工を迎え、今後自主的な活動が始まるとのことであり、十分に期待に込めていただけるものと判断し、Sとした。

【委員】

J-PEAKSへの採択は評価すべき点であり、また、創業や社会的実装に関する取組は、稼ぐ力という観点からも評価できる。財政面を考慮する上では、社会的実装を収益化していくことが重要なポイントであると考えられる。そうした点において、法人が努力されたということで、自己評価もSとされていることから、その評価を尊重した。

【委員】

J-PEAKSの採択に加え、各種体制整備が着実に進展している点も踏まえ、Sが妥当であると判断した。

【委員長】

私も、J-PEAKSに採択されたこと自体が非常に大きな成果であるし、その背景には多大な努力があったものと受け止めている。加えて、先ほど指摘があったように、体制整備やイノベーションに関する多様な取組も進められており、これらを総合的に評価してSが妥当であると感じている。

以上のような認識で、Sとすることで問題はないか、ご確認いただきたい。

【委員】

問題ない。

【委員長】

それでは、法人の自己評価とも一致しているということで、Sとさせていただく。

評価所見の記述内容についても、原案の通りでよろしいか。

(異議なし)

3. 研究基盤の強化及び支援体制の整備

【委員長】

全員がBで一致、法人の自己評価もBである。

評価所見の記述内容も含めて、原案どおりでよろしいか。

(異議なし)

Ⅲ 医療

1. 患者本位の医療の提供と患者安全の取組

【委員長】

Aが1人、Bが4人であるため、原案はBとしている。法人の自己評価はBである。
Aとした委員の意見はいかがか。

【委員】

厳しい経営状況の中で、マネジメント体制の強化に取り組んだ点は評価に値すると判断し、努力の姿勢を踏まえて、やや寛容な評価とした。最終的な評価の確定については委員長に一任したい。

【委員長】

マネジメント体制の強化への取組の評価については、「優れた点・特色ある点」として所見の記載があることと、他の項目においてはより高い評価が付されていることとのバランスを踏まえ、本項目はBとすることが妥当かと考える。評価所見の記述内容には、気になる点はないか。
(特になし)

2. 質の高い医療の提供

【委員長】

原案はAであり、1名がB。これは私がBとしたが、内容を再確認した結果、Aとすべきところを誤って記入した可能性が高い。ついては、評価所見部分の内容に特段の意見がなければ、原案通りAとして取りまとめさせていただきたい。
(異議なし)

3. 政策的医療への貢献、地域医療の推進

【委員長】

Aが4人、Bが1人であるため、原案はAとしている。法人の自己評価はAである。
Bとした委員の意見はいかがか。

【委員】

救急応需率や不妊治療件数は、設定した指標を大きく上回る実績であることを確認できるが、その他の項目とのバランスを踏まえて、総合評価としてBの範疇と判断した。しかし、重要な指標において顕著な達成が見られるということから、Aとすることも妥当と考えるため、他の委員の意見を踏まえ、最終的な評価を確定していただきたい。

【委員長】

Aとした委員の意見を伺いたい。

【委員】

報告書に記載のあるように、適切に取り組んでいるという自己評価を妥当と判断し、Aとした。

【委員】

ほとんどの指標が達成されていることと、地域医療機関との機能分化に向けた逆紹介の取組にも主体性に取り組んでいることを加味して、プラス評価とした。

【委員】

各指標に表れているとおり、非常に熱心に取り組んでいる様子が伺える。その点を踏まえ、Aが妥当と判断した。

【委員長】

私も、救急応需率等に非常に高い水準の実績が示されており、指標ごとに若干の変動は見られるものの、厳しい状況下での取組の成果が数値に表れている点から、全体として高い努力が伺えると判断し、Aとした。特に救急応需率などは重要な指標の一つかと認識しているが、他に留意すべき点があれば意見をいただきたい。

【委員】

両病院長が高いリーダーシップを発揮し、病院の運営に尽力している様子が伺えるが、職員がそ

れにしっかりと応えている点が重要と考える。こうした成果が各種指標に表れていることから、今回の評価は、病院長の指導のみならず、それに応えた職員の努力に対する評価として位置づけるべきかと考える。

【委員長】

それでは、Aということで、評価所見の部分も原案どおりとすることでよろしいか。
(異議なし)

4. 明日を担う質の高い医療人材の育成と活用

【委員長】

全員がBで一致、法人の自己評価。評価所見の記述内容も含めて、原案どおりでよろしいか。
(異議なし)

IV 法人経営

1. 経営改革を強力に推進するガバナンスの強化

【委員長】

全員がBで一致、法人の自己評価もB。評価所見の記述内容も含めて、原案どおりでよろしいか。
(異議なし)

2. 不断の経営改革及び持続可能な経営のための自己収入確保

【委員長】

全員がCで一致、法人の自己評価もC。評価所見の記述内容について、意見等はあるか。

【委員】

寄付金獲得額の見積設定について記載したが、これは検討の余地があると考え。詳細な仕組みは承知していないが、中期計画の目標額の設定が高めであったのではと感じる。私の所属機関では、1期6年の中間で見直す方式を採用しており、社会情勢や費用の変動を踏まえて、計画を変更している。本件についても毎年の微調整は行われていると思うが、期全体の初期設定に関する見直しの必要性を指摘したもの。ファンドレイザーの活用などの取組も伺っているが、特に金額の設定は非常に難しく、他大学でも課題となっていると認識している。

こうした背景を踏まえ、初期設定の妥当性を含めて検討すべきと考えて記載したが、目標の変更は難しく、仮に目標が達成できなかった場合には、やむを得ないものとして扱われるということとなるのか。

【法人】

中期計画期間中の寄付金獲得目標額は20億円と設定しているが、変更は困難な状況。年度の指標については一部調整しているが、計画通りに進めた場合でも、20億円の達成には課題が残る可能性があることを認識している。委員の指摘のとおり、次期計画策定の際には、社会情勢の変化を十分に踏まえた目標設定が求められると考えている。本件については市会でも報告予定であるが、昨年度の報告時も、目標設定が精緻ではなく、過大であったのではないかと意見を頂戴しているところ。

【委員】

それでは、本記載が誤解を招く可能性があるようであれば、加筆・修正いただいて構わない。寄附金の見積額が中期計画全体を通じた設定であるということと、将来に向けて目標設定のあり方を検討すべきとの趣旨が伝わる内容としていただければ問題ない。

【委員長】

委員の指摘を踏まえ、事務局にて記載内容を検討いただき、私も事務局と相談の上で対応させていただきたい。他に意見がなければ、本項目については以上とさせていただいてよろしいか。
(異議なし)

3. コンプライアンス推進、リスクマネジメントの確立

【委員長】

全員がBで一致、法人の自己評価もB。評価所見の記述内容も含めて、原案どおりでよろしいか。
(異議なし)

4. 教職員エンゲージメントの向上

【委員長】

Aが2人、Bが3人であるため、原案はBとしている。法人の自己評価はBである。

【委員】

Aとした。勤務時間の管理は非常に難しいことであり、特に医師においては超過勤務の傾向が顕著であると認識しているが、そうした状況にあっても、重点項目である勤務時間の上限規制が適切に遵守されており、加えて、配偶者の出産に伴う休暇も着実に取得されていることから、十分に評価に値すると判断した。

【委員】

私もAとした。複数の項目において、設定した目標を達成している点、また、配偶者の出産に伴う休暇取得については、指標とされている100%を達成することは難しく、従来より設定そのものに関する議論もあるところかと思うが、前年度と比較して実績が大きく向上していることから、Aと評価した。

【委員】

Bとした。時間外勤務の問題は確かに対応の難易度が高いことであると認識しているが、ルールの中で必要な対応がなされることが標準であるということが一つ、また、エンゲージメントの向上については受け手側の評価が重要と考えるが、教職員を対象とした意識調査は来年度の実施予定であるとのことなので、現時点では成果を十分に把握することが難しい。これらを総合的に勘案し、Bとした。

【委員】

定性的指標・定量的指標ともに、おおむね計画通りに進捗しているのでBとした。コメントを記載したのは、現場が非常に多忙な状況にある中で、看護師の離職率が上昇している点について。業務の逼迫とのトレードオフの関係にあるとは理解しつつも、今後の運営において懸念すべき点と考える。

【委員長】

私もBとした。看護師の離職率の数値にやや気になる点がある。他の項目については、よく努力している様子が伺え、特に配偶者の出産に伴う休暇取得については、医師においても実績が大きく向上しており、努力の成果が着実に表れつつあると感じるが、まだ改善の余地がある部分も見受けられることから、Bとした。エンゲージメントに関しては、職員がどのように受け止めているかを把握するための調査結果がまだ出ていない状況であるので、それらを踏まえた上で評価することが妥当と考える。

【委員】

ダイバーシティについて、「更なる充実が期待される点」の最後の部分に、「方針に基づく具体的な展開や～」と（事務局で）コメントを整理されているが、横浜市立大学では女性活躍推進法及び次世代育成支援対策推進法に基づき、ダイバーシティ推進計画が策定されており、具体的な行動目標として、女性の比率等の明確な数値目標が掲げられている。ダイバーシティの推進は計画通りに進めることが難しい側面もあるが、昨年度は高い目標を掲げたものの、達成が難しく、それが評価に影響した経緯もあったかと記憶しているが、行動目標が明確に示されている以上、ここは「行動目標の実現に向けた取組」といった表現の方が、より実態に即した記載になるのではないかと考える。

行動目標として、具体的な数値をパーセント等で明示することは、場合によっては対応が難しくなる恐れもあるが、一方でこれは大学の方針として示されているものであり、一定の意義があると考え。ダイバーシティの中でも、特にエンゲージメントに関する領域は非常に複雑で、何をどう進めるかによって、毎年の重点や評価の視点が変わってくる。そうした中で、行動目標が明確に設

定されている以上、「行動目標の実現に向けた取組」といった表現を用いることが適切と感じる。

【委員長】

委員からは、以前より、目標や取組計画が明確ではないのではないかと指摘をいただいている。そのような背景も踏まえ、行動計画や行動目標が設定されているのであれば、それに向けた取組として記載する方がより適切と感じる。具体的な目標との関係性を明示することで、より実効性のある内容になると考えるので、今の指摘を踏まえ、事務局と調整させていただくということでよろしいか。

(異議なし)

その他、特に意見等はないようであるので、本項目はBとさせていただきます。

5. YCUの価値向上

【委員長】

全員がBで一致、法人の自己評価もB。評価所見の記述内容も含めて、原案どおりでよろしいか。

(異議なし)

6. 課題解決を目指した地域社会との協働の推進

【委員長】

全員がBで一致、法人の自己評価もB。評価所見の記述内容も含めて、原案どおりでよろしいか。

(異議なし)

7. 医学部・病院再整備事業を見据えた取組の推進

【委員長】

Aが3人、Bが2人であるため、原案はAとしている。法人の自己評価はAである。

まず、Bとされた委員の意見を伺いたい。

【委員】

現時点では、再整備の全体像について十分に理解が及んでおらず、特に共同購入等の技術的な側面に関する取組なのか、それを超えた議論なのかといった点について、明確に把握できていなかったため、本項目についてはコメントを差し控え、法人の自己評価に従う形とさせていただいた。

【委員長】

確かに読み手の立場からすると、やや分かりづらい箇所があり、前置きや補足が必要かと思うので、事務局や法人で補足できる点があれば共有をいただきたい。

再整備の文脈では、附属2病院間の連携強化が中心に据えられていると理解しているが、再整備事業全体を見据えた取組という場合に、どの点に重点を置いて評価すべきか。再整備と経営改善は同義ではないが、両者には重なる部分が多く、加えて、附属2病院間の連携も重要な要素と考えられる。法人として、どの領域に重点を置いて取り組んでいるか。

【法人】

本項目は、「連携の推進と経営基盤の強化」と「医学部病院等再整備の検討」の2つで構成されている。前者については、他の項目においても評価をいただいている部分で、比較的、比重の大きい要素と捉えているが、附属2病院間の連携強化や共通物品の購入等、経営基盤の強化に向けた取組を進めており、自己評価はAとした。後者は、再整備事業に関する市との調整や、基本計画の検討が中心である。市との調整は着実に進めており、基本計画についても公表に向けた準備を進めていることから、自己評価はBとした。

再整備事業については委員の議論が入りにくい部分もあるかと考えるため、特に前者の連携・経営基盤強化に関する取組に着目し、附属2病院がしっかりと対応しているかという観点で議論をいただければ考える。

【委員長】

後半の再整備に関する内容は評価が難しい部分もあると感じていたが、評価のポイントが示され、有意義な視点が得られた。さらに意見や質問があればお願いしたい。

【委員】

説明によって内容は理解したが、再整備という言葉が枕詞として用いられていることで、後段の内容、すなわち、評価は難しいものの、その進捗状況を見守るという観点で確認する内容については、計画通りできているので「標準」と評価することに重きを置くべきと考える。前段のコスト削減などは経営全般の中でやっていただくとして、後段については、遅延なく進行しており、特段の問題も見受けられないことから、進捗状況に基づく評価としてBとすることが適切と考える。

【委員】

個人的な見解となるが、2病院はそれぞれ独自に発展・経営してきた経緯があり、まず、その違いを調整する必要がある。市との調整を含め、統合に向けた足場固め、地ならしも不可欠であり、そこに重点が置かれている印象を受けるが、ただ、これほど大規模な統合は、実質的には新しい病院の創設に等しく、人的・財政的資源の大きな投入が伴う。そうであれば、まず、どのような病院を目指すのかというビジョンの提示が不可欠ではないか。市民病院などの整備が進む中で、横浜市が大学病院として何を構想しているのかを明確にする必要がある。こうした大規模事業はバックキャストイングの手法で進めるべきであり、現状の進め方はフォーキャストイング的で、懸念が残る。評価としては、計画通りであるということでBが妥当と考える。

【委員長】

Aとした委員の意見はいかがか。

【委員】

前半の項目について、合同入札の実施等が、経営改善に表れていること等が具体的に記載されており、実際に進展が見られている。2病院が新しくなることについて、ビジョンは現時点では明確な形で提示はされていないが、着実に進められているものと理解しており、2つの異なる病院が合同入札等の取組を通じて歩み寄り、経営的にも改善が見られている点を評価し、Aとした。

【委員】

ほぼ同様の見解となるが、前半部分については、着実に具体的な取組が進んでいることが明確になっている。一方、再整備に関する部分については、慎重な対応が進められていると見受けられ、現時点では具体的な内容が見えづらい。法人経営という項目で、どの側面に重きを置くかによって判断は分かれるところと思うが、今回は前半の進捗を重視して、Aとした。

【委員長】

非常に難しい評価であると感じている。今、指摘があったように、再整備自体の在り方について、現時点では十分には見えてこない印象があるが、「再整備を見据えた取組」とされていることから、直接的な再整備の内容というよりも、それに向けた基盤強化や準備的な取組が中心であると理解している。再整備事業に関するビジョンは必ずしも明らかにはなっていないところがあり、これは法人・市双方に関わる課題かと思うが、整理がされていない印象がある。一方で、連携や経営基盤の強化に関する取組は、「医療」分野の項目では十分に評価できていない面もあるが、本項目では重点的に取り上げられており、実際に2病院がそれぞれ個別に動いていた状況から、連携・協働の体制構築に向けて、相当な努力がなされている点は高く評価できる。

後半の評価軸に関しては、どのような観点で重みづけを行うかによって判断が分かれるところであるが、市としてはどのように捉えているか。

【市】

再整備の基本計画の策定については、市と法人の共同による取組であるため、法人単独の努力によるものではない部分が多い。そのため、委員からも御指摘があったように、前段の取組において、法人として可能な範囲で、どこまで対応できたかという点を中心に評価いただくことが適切かと考える。

【委員長】

そうした点を踏まえると、前半部分に力点を置いた評価とすることで問題ないかということであるが、委員の見解を伺いたい。

【委員】

仮に前半に力点を置いた評価であるとしても、率直に言えば、取組の内容として特筆すべき点は多くないと感じている。これが全く異なる法人や病院間での連携であれば、高く評価すべきだが、同一法人内での取組である以上、当然の対応とも言える。やれて当然という印象を持っており、厳しい言い方になるが、特段の成果とは捉えていない。当方では 57 の病院を有しているが、いずれも同一の運用をしている。

【委員長】

確かに、同一法人であれば共同購入などの取組を進めることは自然な流れであり、これまで両病院が独立して運営されていた状況の方が特殊と言える。

今の指摘も踏まえると、計画通り進めているという観点から、B とするのが妥当ではないかと考える。評価の重みづけや、これまでの状況をどう捉えるかによって判断は分かれるが、後半では再整備自体を直接的に評価しているわけではない一方、前半部分のみでは、再整備を見据えた取組としての位置づけがやや不明確であり、また、再整備を見据えたということでもなくとも、連携や協働は経営改善の取組として、通常のことであることも考慮すると、特に「再整備事業を見据えた」ということで取り上げられている項目であれば、後半部分も含めた形で B とする方が全体として妥当性があると考えます。

評価は B とし、計画通り進めているとの位置づけで整理したいと思うが、評価や所見の記述内容について、意見があればお願いしたい。

(特になし)

それでは、原案の評価を修正して対応することとする。

8. 環境への配慮や交流を意識したキャンパスづくり

【委員長】

全員が B で一致、法人の自己評価も B。評価所見の記述内容も含めて、原案どおりでよろしいか。
(異議なし)

V 自己点検及び評価

【委員長】

全員が B で一致、法人の自己評価も B。評価所見の記述内容も含めて、原案どおりでよろしいか。
(異議なし)

VI 地域貢献

【委員長】

A が 3 人、B が 2 人であるため、原案は A としている。
各委員の意見を伺いたい。

【委員】

多数ある項目を確認した中で、相対的に着実な実績が示されていると感じた。当初は、例えばリカレント教育など、地域向けの講義提供に関しては把握しづらい部分もあったが、現在は大きく進展している印象を受ける。地域とのコミュニケーションの取組も含め、全体的に評価できる内容であると判断し、A とした。

【委員】

データ活用などの面に力を入れており、企業としても、そうした人材の輩出は非常に有益で、実際に助かっていると感じている。また、横浜市民として、救急医療を含む地域の医療体制の維持・強化に尽力されている点についても、大きな貢献があると受け止めている。横浜市立大学の名のもと、地域に根差した活動を継続されており、十分にその存在意義を示していると考え、社会貢献の観点から A とした。

【委員長】

B とされた委員の意見はいかがか。

【委員】

オンラインを活用したプログラムやリカレント教育に関する取組について、一定の進展は認められるが、参加者数の更なる増加など、今後の展開に期待するという意味を込めてBに留めた。

【委員】

救急応需等については十分に対応されていると認識しているが、それ以外の取組を含めて見た場合、計画に沿って着実に進められているという印象を持ち、Bとしたが、評価については委員長の判断に一任したい。

【委員長】

私は、本項目については教育・研究・医療の各分野において地域との関わりを深めながら、さらに特色ある取組が展開されていると感じ、Aとした。

それでは、以上の点を踏まえ、Aとさせていただいてよろしいか。

(異議なし)

VII グローバル展開

【委員長】

全員がBで一致、法人の自己評価もB。評価所見の記述内容も含めて、原案どおりでよろしいか。

(異議なし)

様々な取組が見られるが、なお改善の余地は大きいと考え、私もBとした。今後の更なる発展に対する期待は大きい。

● 総 評

【委員長】

3ページの総評について、全体としては、具体的な取組が計画に基づき、着実に進展しているとの評価を示している。教育、研究、医療、法人経営の各分野についても、それぞれまとめを記載している。特に法人経営に関しては、収支改善が喫緊の課題であるとの認識に基づき、最後の段落において、一層の取組と努力への期待を記述している。現在、どこの病院・大学ともに厳しい経営状況にある中で、ゼロベースでの見直しや、幅広い視点からの検討を求めるという表現としているが、この表現で適切かどうか、意見を伺いたい。

【委員】

「幅広い視点からの検討を強く求める」との表現については、具体性に欠けるとの印象を持たれる可能性はあるが、現時点ではこれが妥当な表現と考える。

【委員長】

様々な部分での見直しや検討、努力が必要であるという認識は共有されているものと思われるが、全体としては、そうした取組の必要性や期待が十分に示されているので、この程度の記述が妥当かと考えるが、いかがか。

(異議なし)

【委員長】

項目別評価及び総評について確認をいただいたが、全体を通じての意見等はいかがか。

(特になし)

本日の指摘や修正内容を踏まえ、事務局にて原案の修正を進めるが、最終的な調整については、委員長に一任いただくということでよろしいか。

(異議なし)

閉会